

平良港国際旅客船拠点形成計画

平成 29 年 12 月

宮古島市

【 目 次 】

＜平良港国際クルーズ拠点形成計画策定の目的＞	1
1 国際旅客船取扱埠頭の係留施設の優先的利用等の基本的な方針	1
1.1 平良港の概要	1
1.2 平良港のクルーズ船の寄港状況	7
1.3 平良港の港湾計画等における位置づけ	9
1.4 クルーズ船受入れに係る主要港湾施設(係留施設、旅客施設等)の整備状況	11
1.5 国際旅客船の寄港の拠点の形成に係る取組方針	13
2 国際旅客船拠点形成計画の目標	14
3 国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業等及び実施主体に関する事項	14
3.1 国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業	14
3.2 その他の事業について	18
4 国際旅客船拠点形成計画の実施に関し港湾管理者が必要と認める事項	19
5 本計画の変更および状況の確認について	22

＜平良港国際クルーズ拠点形成計画策定の目的＞

本計画は、平良港が国際旅客船拠点形成港湾に指定されたことを受けて、国際クルーズ船の安定的な寄港により、本市の観光産業及び地域経済の活性化を実現するための具体的な取組について定め、平良港の拠点港としての効率的な運用の推進を図るものである。

1 国際旅客船取扱埠頭の係留施設の優先的利用等の基本的な方針

1.1 平良港の概要

1.1.1 宮古島市の概要

宮古地域は沖縄本島から南西に約 300 k m、東京から約 1,800 k m、北緯 24 度、東経 125 度に位置し、大小 8 つの有人島(宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島、多良間島、水納島)で構成され、宮古島はその地域経済の中心である。

宮古島市は宮古島及びその周辺 5 島からなる。なお、多良間島と水納島は多良間村である。

宮古島の総面積は 159 k m² で、沖縄県で 4 番目に大きな島である。

宮古島で最も標高が高いのは 113m であり、全体が概ね平坦で低い台地状を呈し、農耕に適している。

年平均気温は 23.6 度で、冬季でも比較的暖かく、夏季は海からの南西風が炎暑を和らげている。



宮古島市の位置

表1 宮古島の月別平均最高気温



資料：宮古島ねっと、ガイドブック宮古島

表2 宮古島の月別平均最低気温



資料：同上

宮古地域の人口は約 54 千人で沖縄県の 3.8%である。経年的は減少傾向で推移してきたが、近年は減少傾向が落ち着きつつある。

主要な産業は農業であったが、近年は県内の他の地域と同じように観光が急速に拡大しつつある。

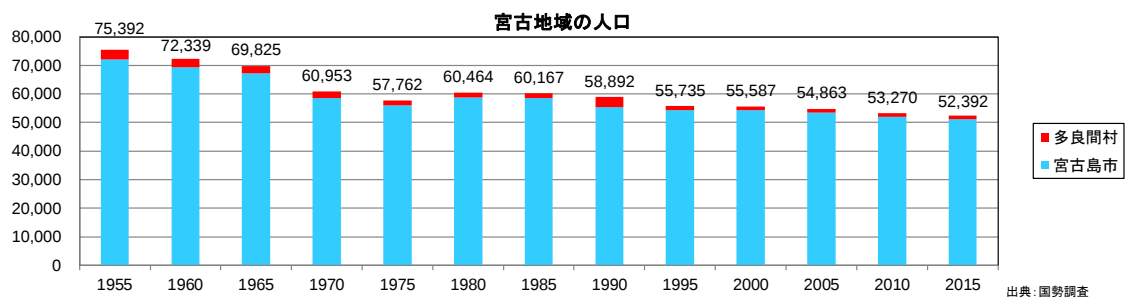
なお、宮古地域の耕作地面積は 53%であり、農業産出額の構成ではさとうきびが 45%を占めている。宮古地域のさとうきび年間生産量は約 32 万トンで沖縄県の 47%を占めている。

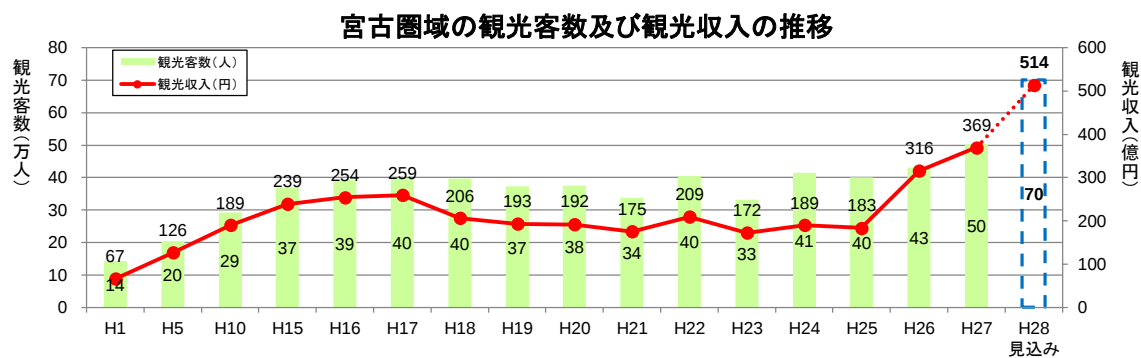
表3 宮古島市の人口・世帯数

市町村	人口(人)	世帯数(世帯)
宮古島市	54,519	25,535
多良間村	1,192	525
宮古圏	55,711(3.8%)	26,060(4.2%)
沖縄県	1,461,231(100%)	621,790(100%)

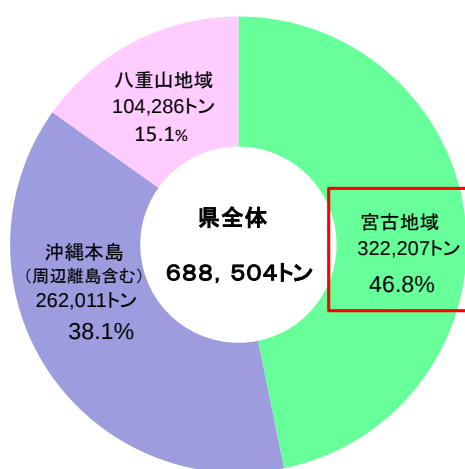
資料：宮古概観、H29.3、県総務部宮古事務所

注：資料は H28.1.1 現在の登録人口・世帯数



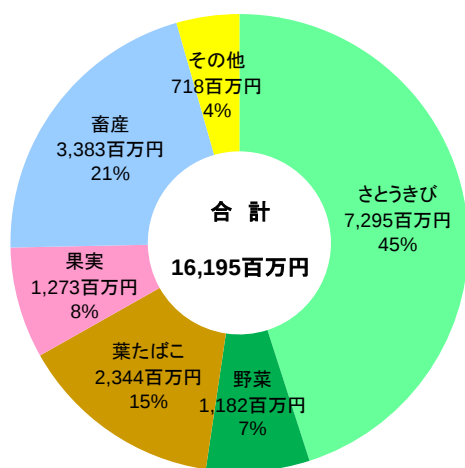


出典:宮古島市作成



沖縄県のさとうきび地域別生産実績(2014 年)

資料：沖縄県農林水産部



宮古地域の農業産出額(2014 年)

資料：沖縄県宮古農林水産振興センター

1.1.2 平良港の概要

平良港は宮古島市の中心である旧平良市市街地の前面に位置する重要港湾であり、宮古島市、多良間村からなる宮古圏の拠点港であり、重要港湾に指定されている。

昭和 47 年(1972 年)の沖縄の本土復帰に伴い、平良市を港湾管理者とする重要港湾に指定され、国の港湾整備計画に基づく整備が進められた。これにより昭和 60 年には 10,000 トン級バースを含む漲水地区が概成した。その後、下崎地区の整備に着手し下崎北・西防波堤、12,000 トン級のバースが整備され、平成 20 年(2008 年)には同地区も供用された。さらに南側のトゥリバー地区では、海洋性レクリエーション拠点とするためのマリーナ、人工海浜等が整備され、平成 10 年(1998 年)にはマリーナの供用が開始された。

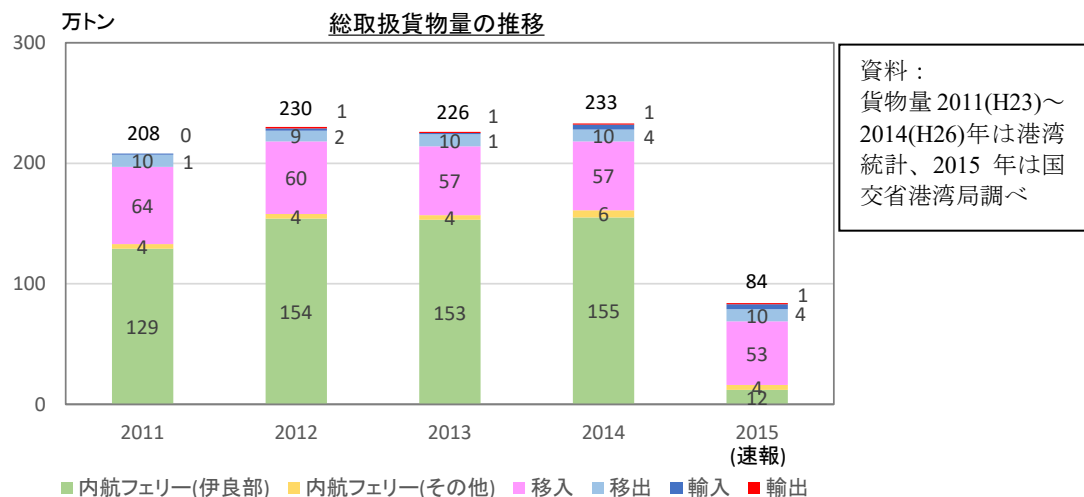
現在の平良港は、北から下崎地区、漲水地区、トゥリバー地区の 3 地区からなる。各地区の主要な港湾施設は次のとおりである。

表 4 平良港の主要な港湾施設(現況)

地区	埠頭等	施設	計画対象船舶	利用状況
下崎	下崎	岸壁(-10)1B 170m *1	12,000DW 級貨物船	不定期利用 クルーズ船利用
	泊地	航路・泊地(-10)	10,000GT 級フェリー	クルーズ船利用(沖泊)
漲水	第 1	岸壁(-7.5)2B 260m 岸壁(-5.5)2B 180m	5,000DW 級貨物船 2,000DW 級タンカー	定期的利用 不定期利用
	第 2～3	岸壁(-10)1B 340m 岸壁(-7.5)1B 100m 岸壁(-7.5)1B 130m 岸壁(-6.5)1B 105m	110,000GT 級旅客船 10,000GT 級 RORO 船 5,000DW 級貨物船 3,000DW 級貨物船	工事中 工事中 RORO 船定期利用 不定期利用
	第 4	岸壁(-4.5)1B 80m	400GT 級フェリー	不荷役バース
		マリーナ 小型船だまり 人工海浜 緑地	180 隻収容可能 船揚場 全長 900m 面積 11.9ha	
トゥリバー				

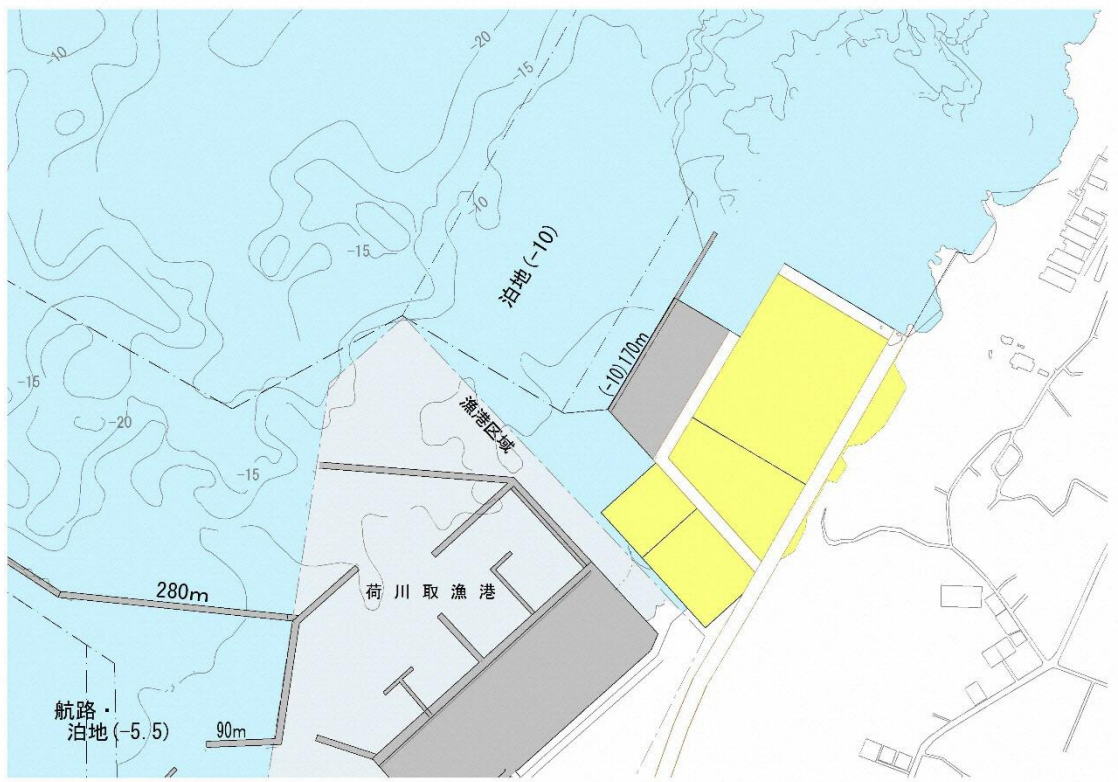
(*1): 仮設施設として、ドルフィン延長 100m が整備されており、50,000GT 級のクルーズ船の利用が可能となっている。

平良港の取扱貨物は平成 26 年までは 230 万トン前後で推移していたが、伊良部島への架橋が供用された平成 27 年以降は 80 万トン台となっている。

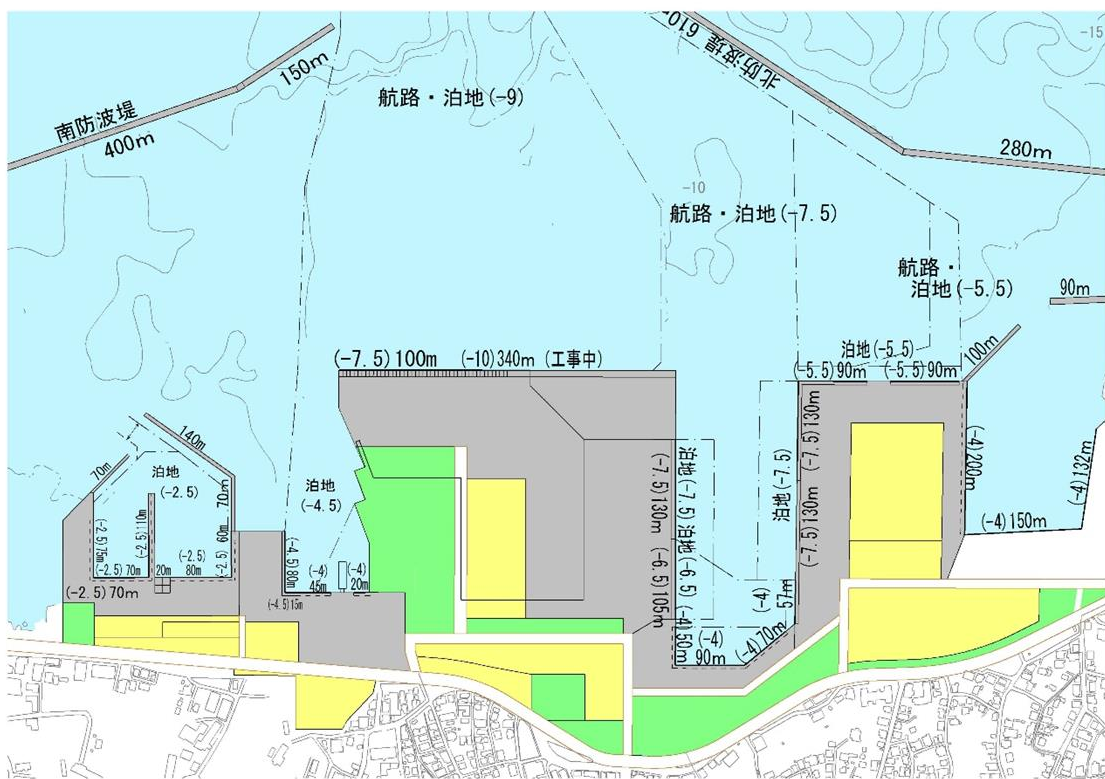




平良港の現況(2015/4 現在)



下崎地区の現況



漲水地区の現況

1.2 平良港のクルーズ船の寄港状況

平良港へのクルーズ船の寄港隻数、利用人数及び寄港したクルーズ船の概要は次のとおりである。

表5 クルーズ船寄港回数及び乗客数

	和暦 西暦	H17年 2005	H18年 2006	H19年 2007	H20年 2008	H21年 2009	H22年 2010	H23年 2011	H24年 2012	H25年 2013	H26年 2014	H27年 2015	H28年 2016	H29年 2017
寄港回数 (回)	定期	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	83	128
	不定期	1	0	2	3	2	0	5	5	1	3	1	3	4
	合 計	23	0	2	3	2	0	5	5	1	3	7	86	132
乗客数 (人)	定期	12,951	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,312	124,245	
	不定期	415	0	972	4,276	607	0	1,631	1,595	376	668	60	769	
	合 計	13,366	0	972	4,276	607	0	1,631	1,595	376	668	9,372	125,014	0

資料: 宮古島市港湾課

注1): H29年は見込み(H29.3.3現在)

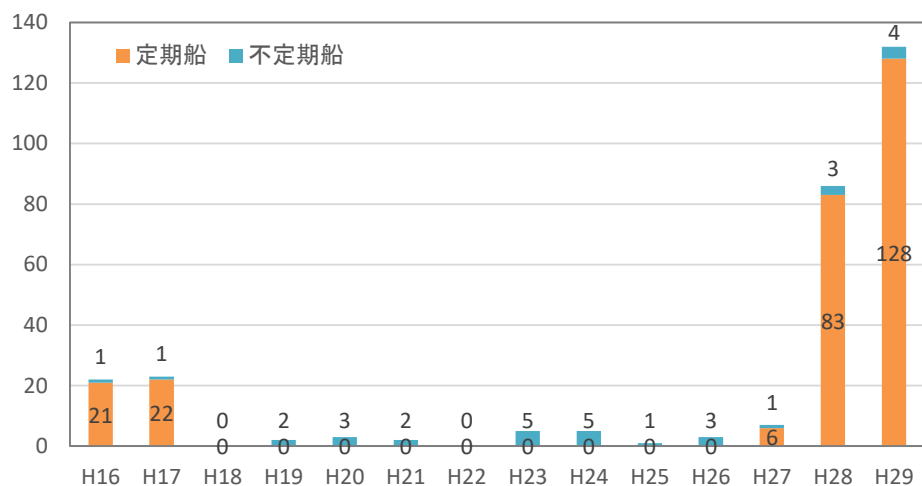
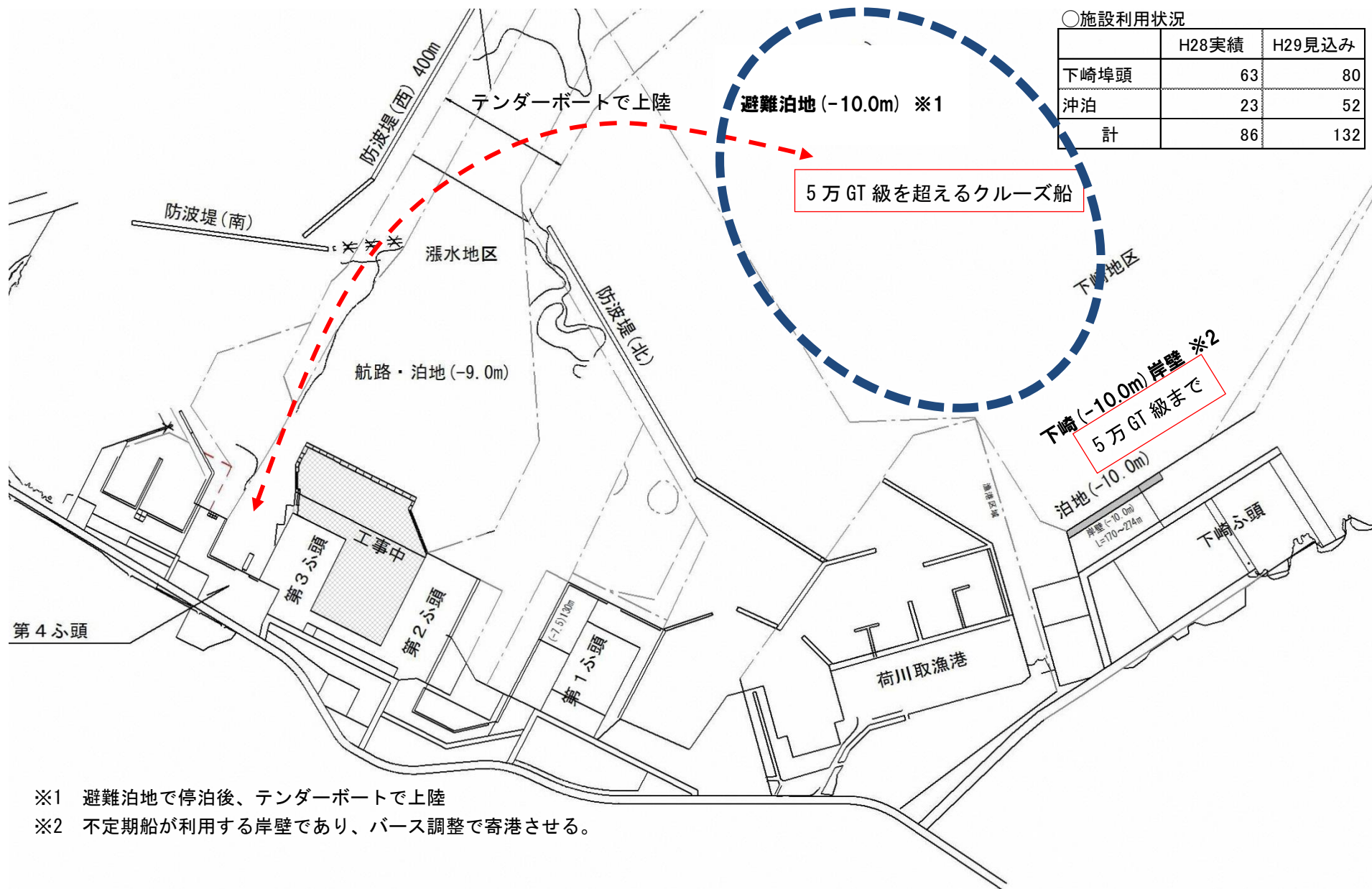


表6 平良港クルーズ船寄港予定一覧(H29.6.2 現在)

船 名	回数	総トン数 (t)	全長 (m)	全幅 (m)	喫水 (m)	総乗客定員 (名)	備考
スーパースターアクエリアス	30	51,309	229.84	28.50	7.01	1,607	台湾
スーパースターヴァーゴ	1	75,338	268.60	32.20	7.90	2,800	中国
サファイアプリンセス	16	108,865	289.51	36.00	8.45	3,286	台湾
コスタネオロマンティカ	7	56,769	220.52	30.79	7.60	1,800	イタリア
コスタビクトリア	4	75,166	252.91	32.15	8.00	2,394	イタリア
コスタフォーチュナ	4	102,587	272.20	35.50	8.20	3,470	イタリア
スカイシーゴールドエンラ	3	72,458	246.50	32.20	7.82	2,110	中国
シルバーシャドウ	3	28,258	186.00	24.80	6.12	423	
ゲンティンドリーム	28	151,300	335.35	39.70	8.30	3,400	
チャイニーズタイシヤン	37	24,427	180.40	25.50	7.25	927	中国
にっぽん丸	1	22,472	166.65	24.00	6.56	524	
ロストラル	1	10,700	142.10	18.00	4.80	264	
カレドニアンスカイ	1	4,200	90.60	15.31	4.20	114	
シーボーンソジャーン	1	32,346	198.00	26.00	6.40	462	
ぱしふいっくびいなす	0	26,594	183.40	25.00	6.52	620	
スーパースターリブラ	0	42,276	216.17	28.40	7.00	1,800	中国
ゴールドプリンセス	0	108,865	289.51	36.00	8.45	3,290	台湾
合 計	137						

※港湾管理者(宮古島市港湾課)よりヒアリングで作成

※出典: クルーズシップ・コレクション2016・2017(発行: (株)海事プレス社)



※1 避難泊地で停泊後、テンダーボートで上陸

※2 不定期船が利用する岸壁であり、バース調整で寄港させる。

平良港におけるクルーズ船の受入れ状況(平成 29 年 6 月現在)

1.3 平良港の港湾計画等における位置づけ

平良港の港湾計画は、平成 20 年 11 月に改訂し、その後、平成 22 年 11 月、平成 29 年 3 月に一部変更を経たものである。

それぞれの計画の概要は以下のとおりである。

表 7 平良港港湾計画の概要(平成 20 年 11 月改訂以降の計画)

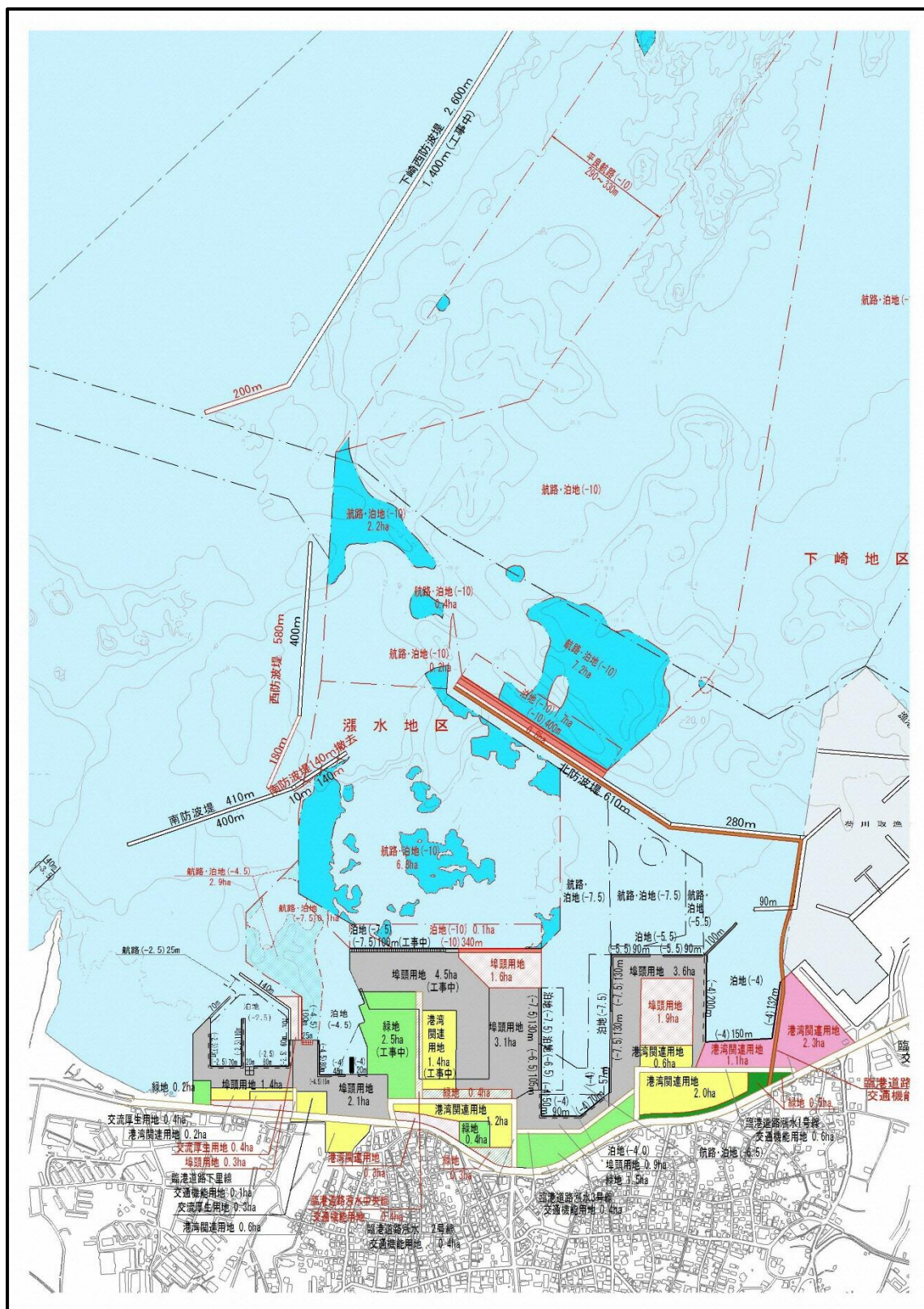
計画	目標年次	計画の概要
改訂 (平成 20 年 11 月)	平成 30 年代 前半	[漲水地区] 水深 9m 岸壁延長 340m 水深 7.5m 岸壁延長 100m 埠頭用地 9ha(旅客施設用地 1ha)
一部変更 (平成 22 年 11 月)		[漲水地区] 水深 9m 岸壁と水深 7.5m 岸壁の位置の変更
一部変更 (平成 29 年 3 月)		[漲水地区] 水深 9m 岸壁を水深 10m 岸壁に変更 [漲水地区] (防波堤外地区) 水深 10m 岸壁延長 400m の追加 上記計画に対応する航路・泊地計画の変更

注：計画の概要は、クルーズに関連する事項について記述した。

平成 20 年 11 月の改訂は、漲水地区の第 2～3 埠頭の複合一貫輸送ターミナル事業に係る岸壁に関わる計画が対象であった。これは同埠頭に RORO 船とクルーズ船が利用する連続バースを計画したものである。定期 RORO 船の大型化が早まったことに対応するとともに埠頭の再編効果を早期に発現させるため水深 9m 岸壁と水深 7.5m 岸壁の位置を入れ替えた計画が平成 22 年 11 月の一部変更である。

この計画は 7 万トン級のクルーズ船の接岸を可能とするものである。

平成 29 年 3 月の一部変更は漲水地区第 2～3 埠頭で計画している水深 9m 岸壁を 11 万トン級クルーズ船に対応できる水深 10m 岸壁への変更と新たに 14 万トン級クルーズ船に対応するための水深 10m 岸壁延長 400m の追加である。現行計画となる平成 29 年 3 月の一部変更計画は以下のとおりである。



平良港港湾計画図(平成 29 年 3 月一部変更)抜粋

1.4 クルーズ船受入れに係る主要港湾施設(係留施設、旅客施設等)の整備状況

現状においてクルーズ船を受け入れることができる港湾施設は、下崎地区の(-10)岸壁 170m(仮設ドルフィンを加えて全長 270m)1 バース、下崎地区の(-10)泊地であり、それぞれの利用可能船型は以下のとおりである。

下崎地区の(-10)泊地を沖泊で利用する場合、乗客はテンダーを利用して、第4ふ頭の浮き桟橋を利用して上陸し、マリンターミナル1階の仮設置される CIQ 施設で入国手続を行う。

表8 クルーズ船受入れに係る主要港湾施設(現況)

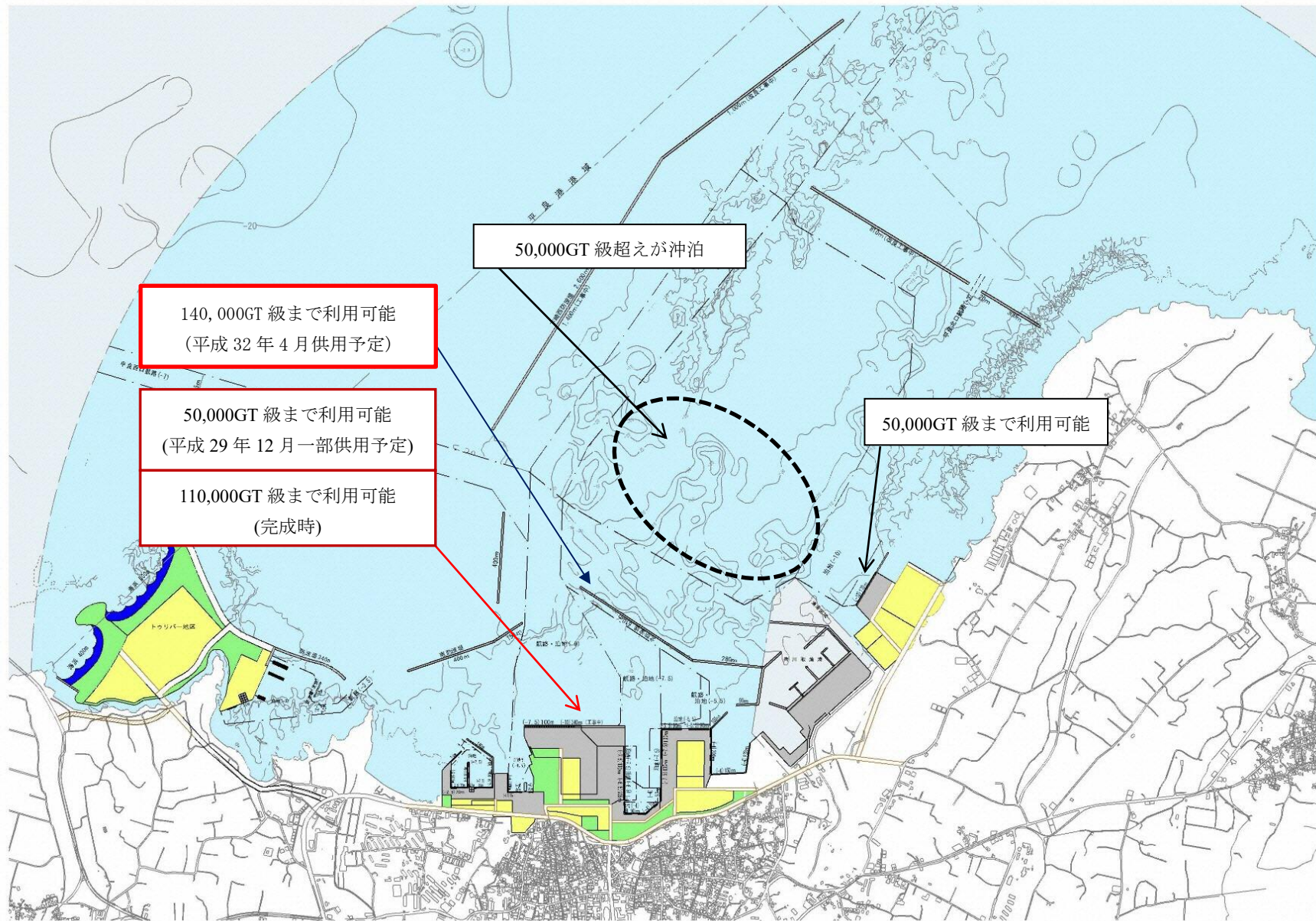
地区	対象船舶	過去の主な利用船	備考
下崎地区	50,000GT 級まで	スーパースター・アクエリアス スーパースター・リブラ	
(沖泊)	50,000GT 級を超える	スーパースター・ヴァーゴ ゴールデンプリンセス	上陸はテンダー利用

なお、現在漲水地区の第2～3ふ頭の改良工事中であり、暫定供用する平成29年12月には50,000GT級、さらに完成後には110,000GT級のクルーズ船が接岸可能となる。

また、防波堤外地区には旅客船岸壁を整備中であり、完成後には140,000GT級のクルーズ船が接岸可能となる。

表9 クルーズ船受入れに係る主要港湾施設(整備中)

地区	対象船舶	利用を想定しているクルーズ船	備考
漲水地区	50,000GT 級まで	スーパースター・アクエリアス	H29.12 月 暫定供用
	110,000GT 級まで	サファイヤプリンセス	完成時点
防波堤外地区	140,000GT 級まで	マジスティックプリンセス	H32.4 月供用



平良港港湾施設の整備状況

1.5 国際旅客船の寄港の拠点の形成に係る取組方針

1.5.1 平良港において国際旅客船の寄港の拠点を形成する上でのクルーズ船受入の現状及び課題

5 万トンまでのクルーズ船が接岸できる下崎地区の埠頭はバルクカーゴを取り扱う埠頭であり、通常は砂・砂利やスクラップ等を取扱っていることから、砂・砂利や鉄くず等の粉塵が舞うこともあり、安全面や景観的にも観光客を迎えるには適切な場所となっていない。加えて、宮古島市の中心市街地からも遠く、徒歩で1時間近くを要する。



また、CIQ 施設がないことから船内での CIQ 対応となるため、乗客の利便性が低い。

5 万トンをこえるクルーズ船については、下崎地区泊地に係留(沖泊)しており、宮古島市への上陸はテンダーボートを利用している。しかしながら、上陸に要する時間は、例えば乗客が 2,000 人程度の場合で 2 時間 30 分以上かかり、乗降で 5 時間もの時間を要するため、島内観光を楽しむ時間が著しく制約され、乗客が十分に楽しめる状況にない。

また、この場合にも専用の CIQ 施設が無いことから、マリンターミナルビルの 1F に仮設の CIQ 施設を設けて対応しているが、準備によけいな時間を要すること、場所が狭隘なことから利用時には混雑して乗客の利便性が低い状況となっている。

1.5.2 国際旅客船の寄港の拠点の形成に係る取組方針

漲水地区および防波堤外地区にクルーズ船対応の係留施設を整備することにより、バルクカーゴの荷捌地を利用する必要がなくなり、乗客の快適性が向上する。また、中心市街地にも近くなることから利便性が向上する。

特にクルーズ船専用施設として整備する防波堤沖地区にはターミナルビルを整備することから、ここを利用するクルーズ船の場合は常設の CIQ 施設を利用できることになる。この場合は、短時間で効率的な C I Q サービスやフリーWiFi の提供が可能となり、空調の効いた快適な待合所を提供できる。

1.5.3 国際旅客船の寄港の形成に関する実施体制

国際クルーズ拠点形成のための円滑な意思決定と施策等の実行を促進するため、港湾管理者とクルーズ船社等の関係者間において定期的な協議・調整を行うための協議会を設置する。

【平良港クルーズ拠点形成協議会(仮称) 会員】

宮古島市港湾課、平良港湾事務所、宮古島商工会議所、Carnival Corporation & plc Asia Pte. Ltd.(以下カーニバル社とする)

2 国際旅客船拠点形成計画の目標

<目標とする国際旅客船拠点の姿>

連携するクルーズ船社へのバースの優先割当等を実施することとして、目標を表10のとおりとする。

表10 国際旅客船拠点形成に関する目標

国際旅客船拠点形成港湾	平良港(沖縄県)
国際旅客船港湾管理者	宮古島市
連携するクルーズ船社	カーニバル社
本計画に記載された国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業やその他の事業、宮古島市を国際旅客船の目的地として魅力的なものにすべく様々な方策が採られることを考慮すると、右記の目標が達成可能な潜在性を有するものと考えられる。	[宮古島市による目標1：供用開始年 2020年] 寄港回数 250回(Carnival Corporation Group190回、他 60回) 目標とする姿：東アジアの主要な寄港地 [宮古島市による目標2：供用開始後10年以内2026年] 寄港回数 310回(Carnival Corporation Group250回、他 60回) 目標とする姿：フライ&クルーズの拠点港

3 国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業その他の事業及びその実施主体に関する事項

3.1 国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業について

3.1.1 国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業の内容

1) 国際旅客取扱埠頭の機能の高度化に資する施設の整備等

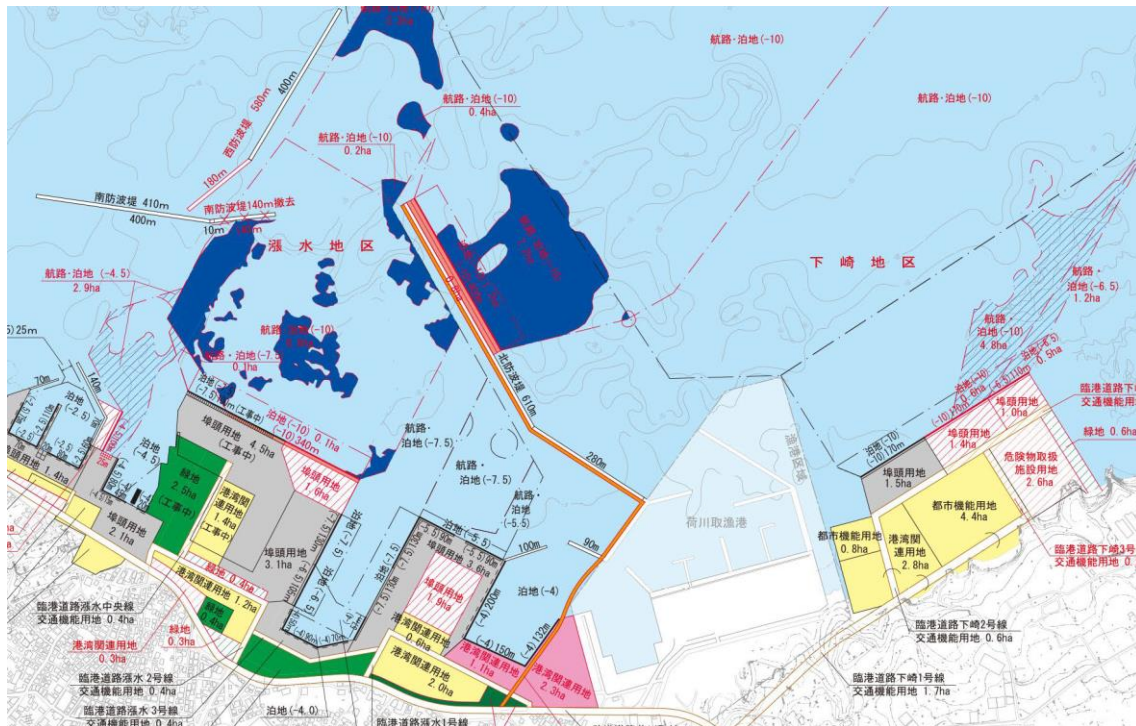
国際クルーズ拠点を構成する施設及びその配置計画

表 1 1 国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業において整備又は利活用する施設

番号	地区	施設名	整備 主体	数量	対象船舶	整備 年度	備考
①	防波堤外	岸壁	国	1 バース	140,000GT まで	平成 29～ 平成 31 年度	
②		航路・泊地	国	7.2ha		同上	
③		泊地	国	1.7ha		同上	
④		臨港道路 荷川取 1 号線	国			同上	
⑤	漲水	ターミナル ビル	カ社*	1 棟		同上	
⑥		シャトルバ ス用駐停車 場及び駐車 場	調整中			同上	
⑦		観光バス、タ クシー、レン タカー用駐 停車場	調整中			同上	
8 子		岸壁	国	1 バース	暫定時 50,000GT 級まで、完成時は 110,000GT まで	平成 24～ 平成 29 年度	

注：番号に○のある施設が国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業対象施設

*)カ社とはカーニバル社のことである。



平良港港湾計画図(平成 29 年 3 月一部変更)抜粋



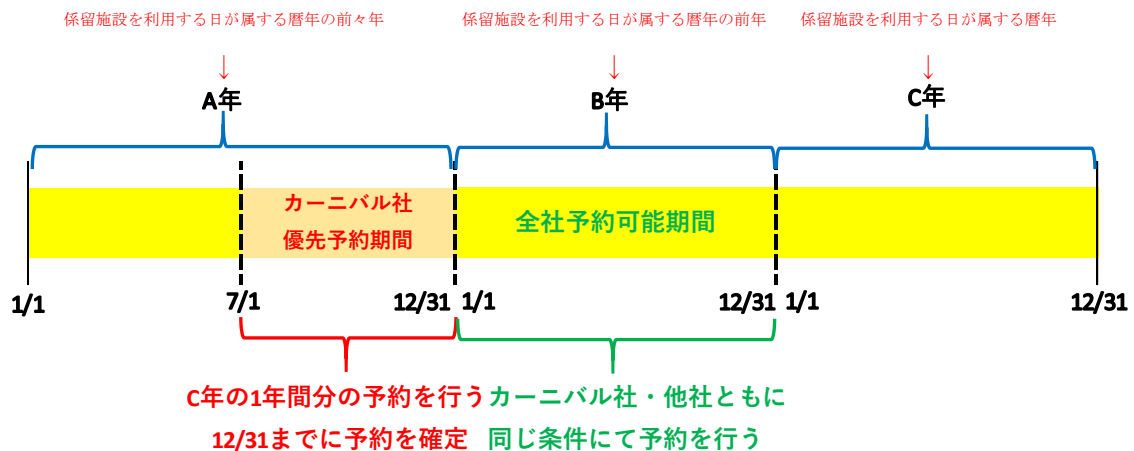
施設配置計画図

2) 官民連携国際旅客船受入促進協定

港湾法第 50 条の 18 第 3 項の規定に基づき、国際旅客船港湾管理者(宮古島市)及び連携するクルーズ船社(カーニバル社)は、前者が係留施設の優先的な利用を認めること、後者が民間国際旅客船受入促進施設の建設を行うこと等を基本内容とした協定を締結する。

(1) 係留施設の利用に係る考え方と具体的な手順

- ・連携するクルーズ船社は、他のクルーズ船社に先立って係留施設の利用を予約することが出来る。
- ・優先的な利用は、年間 300 日を限度として認める。優先的な利用の存続期間は、最大 20 年間とする。(但し、協議の上延長可能)
- ・連携するクルーズ船社は、係留施設を利用する日が属する暦年の前々年の 7 月 1 日から同年の 12 月 31 日の間に、係留施設の利用を優先的に予約する。
- ・連携するクルーズ船社は、係留施設を利用する日が属する暦年の前々年の 12 月 31 日までに、係留施設の優先的な利用の予約を確定させる。
- ・連携するクルーズ船社は、優先的な利用の予約を変更又はキャンセルする際は、速やかに港湾管理者に通知する。
- ・優先予約の確定日以降に行う係留施設の利用の予約については、連携するクルーズ船社とその他のクルーズ船社を平等に取り扱う。



(2) 民間国際旅客船受入促進施設の一般公衆への供用

- ・連携するクルーズ船社は、優先的な利用に基づき係留施設を利用する日時、不可抗力により係留施設を利用できない日時、又は形成協定書に従い係留施設の利用が停止される日時を除き、旅客施設を他社の国際旅客船の利用に供する。
- ・連携するクルーズ船社は、官民連携国際旅客船受入促進協定、港湾法及び関連する法令等に従って、受入促進施設の利用料金を徴収できる。

3. 1. 2 国際旅客船取扱埠頭機能高度化事業の効果

本市の予測によると、国際クルーズ拠点宮古島市に形成された場合、2026 年のクルーズ乗客は約 12.5 万人から少なくとも約 62 万人と増加する(※1)。乗客の消費額は、約 208

億円と見込まれる。(※2)

また、クルーズ観光客の増加に伴い約 1,200 人の雇用創出効果が見込まれる。(※3)

宮古島市への外国人観光客は 2014 年までは 1000 人を越えたことは無かったが、2015 年に 13 回の外国船社のクルーズ寄港があったことから初めて 1 万人に達した。今後、国際クルーズ拠点形成により 60 万人を超える外国人観光客が圏域を訪れるため、域内での交流機会の増加が予測され、宮古圏域の国際化の進展が期待される。

(※1) 2026 年の目標寄港回数 310 回に 1 隻あたりの平均乗客数 2,000 人を乗じた数

(※2) 沖縄県外国人クルーズ観光客の消費原単位 (H28 年度沖縄県調査) 33,656 円/人

(※3) 外国人 1 人当たり旅行消費に対する雇用創出効果=0.002/人、

「国内観光市場の見通しと雇用への影響(2011.3.30)みずほレポート」より宿泊しないことを考慮して対個人サービス(飲食・宿泊、お土産製造・販売)より 0.0004 を控除し設定。

3.1.3 港湾法第 50 条の 16 第 3 項に掲げる許可等に関する事項

(a) 法第 2 条第 6 項による認定を要する施設に関する事項

なし

(b) 法第 3 7 条第 1 項の許可を要する行為に関する事項

なし

(c) 法第 3 8 条の 2 第 1 項又は第 4 項の規定による届出を要する行為に関する事項

クルーズ船社が臨港地区内に旅客ターミナルビルを建設する場合の港湾管理者への届出があったものとみなす。

(d) 法第 5 5 条の 7 第 1 項の国の貸付けに係る国際旅客船港湾管理者の貸付けを受けて行う同条第 2 項に規定する特定用途港湾施設の建設又は改良に関する事項

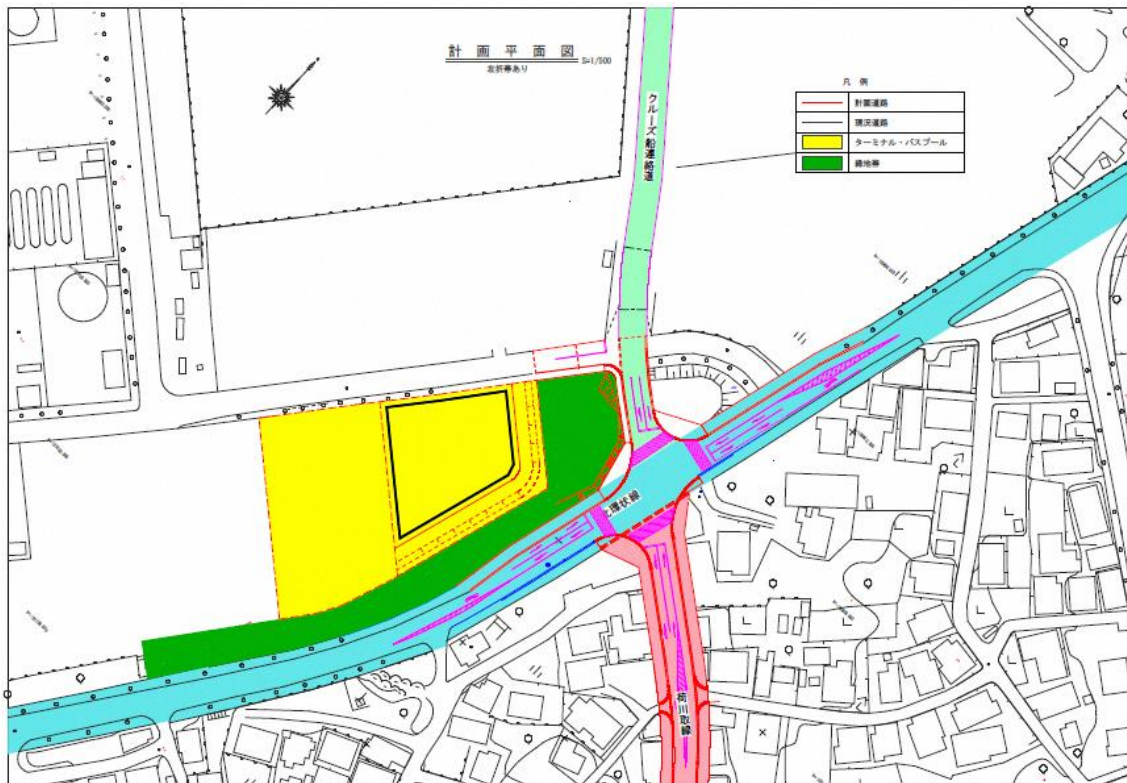
なし

3.2 その他の事業について

平成 28 年度から、当該地区との交差点に接続する都市計画道路(3・4・平 5 号)荷川取線の整備に向けた作業が進んでいる。

この道路は、臨港道路荷川取線(北環状線)と臨港道路漲水 1 号線の接続点から市街地北地域を南北に連結した補助幹線道路となっており、この道路整備により、港から市街地北地域方面や幹線道路へのアクセス等、市街地全体の交通の利便性向上が期待されている。

事業名	道路名	事業主体	数量	事業年度	備考
都市計画 街路事業	都市計画道路 3・4・平 5 号 荷川取線	宮古島市	L=1640m W=17m	平成 28 年度～ 平成 38 年度	※事業期間 については、延長の 可能性有



道路計画図

4 国際旅客船拠点形成計画の実施に関し港湾管理者が必要と認める事項

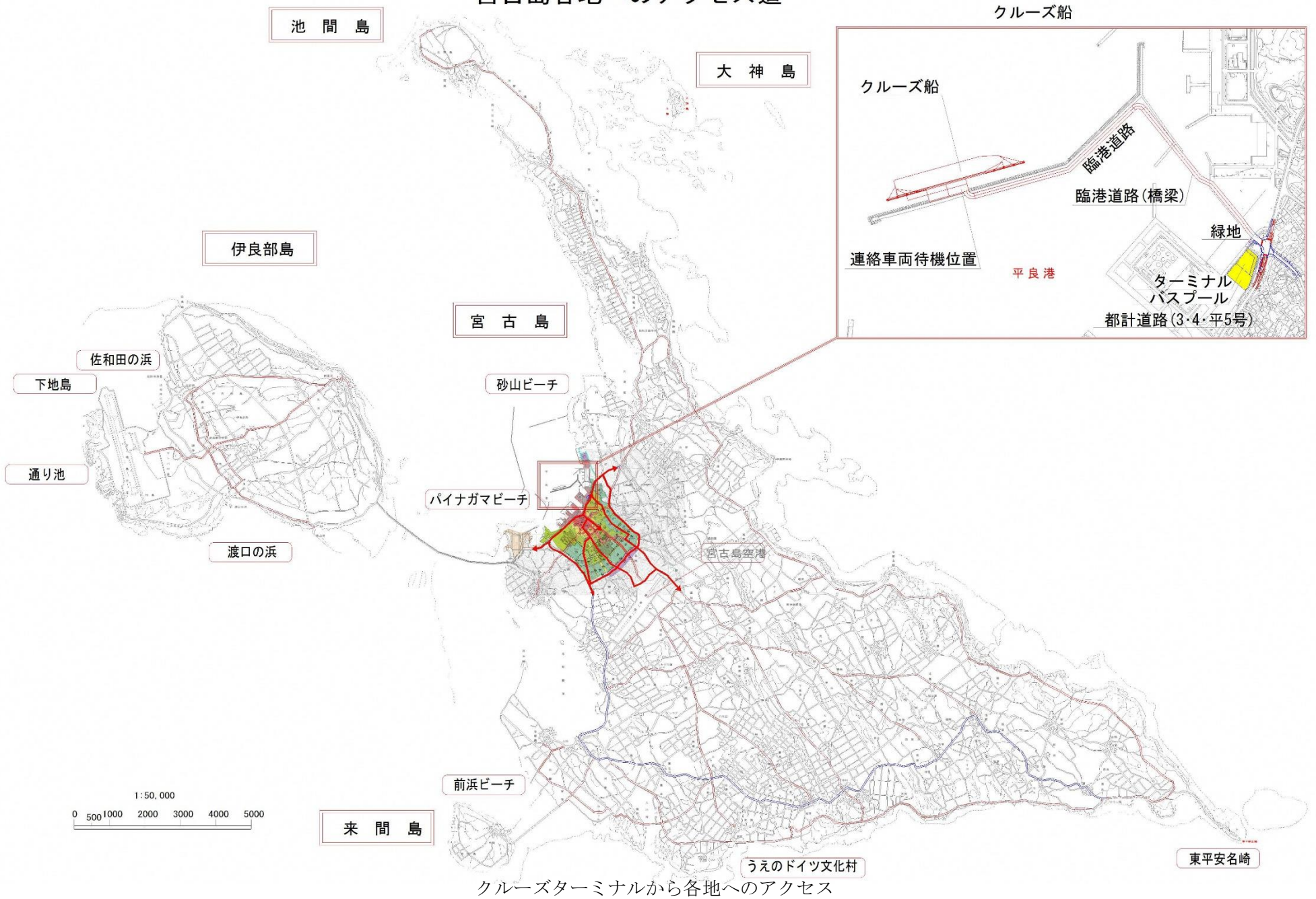
交通渋滞対策に関する取組

クルーズ拠点が形成されることで、多くの観光バスが平良港から島内ツアーに出発していくことが予想される。主な取組としては、以下の2点が挙げられる。

- ① 今後整備予定の臨港道路を、宮古島市が整備予定の都市計画道路(3・4・平5号)荷川取線へ接続させることで、平良市街へのアクセスの利便性を向上させる。
- ② 下記図に示すように、池間方面、上野・城辺方面、下地方面、伊良部方面への主要道に配車を分散させて一極集中を避けることにより、予測される交通渋滞の緩和を図る。

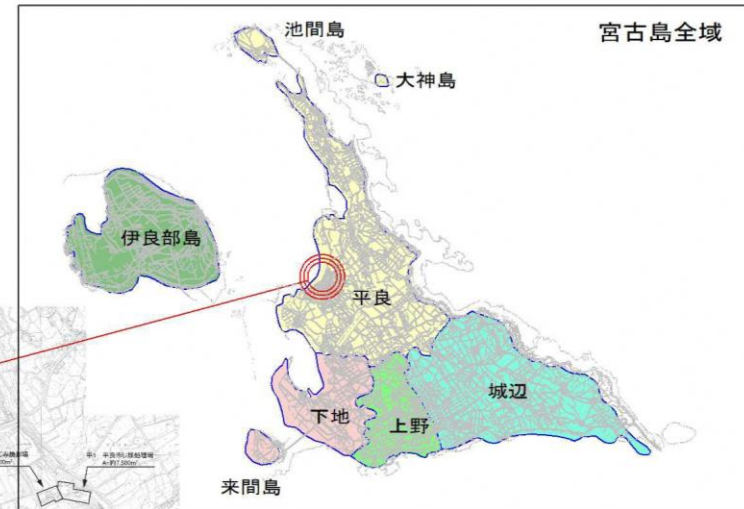
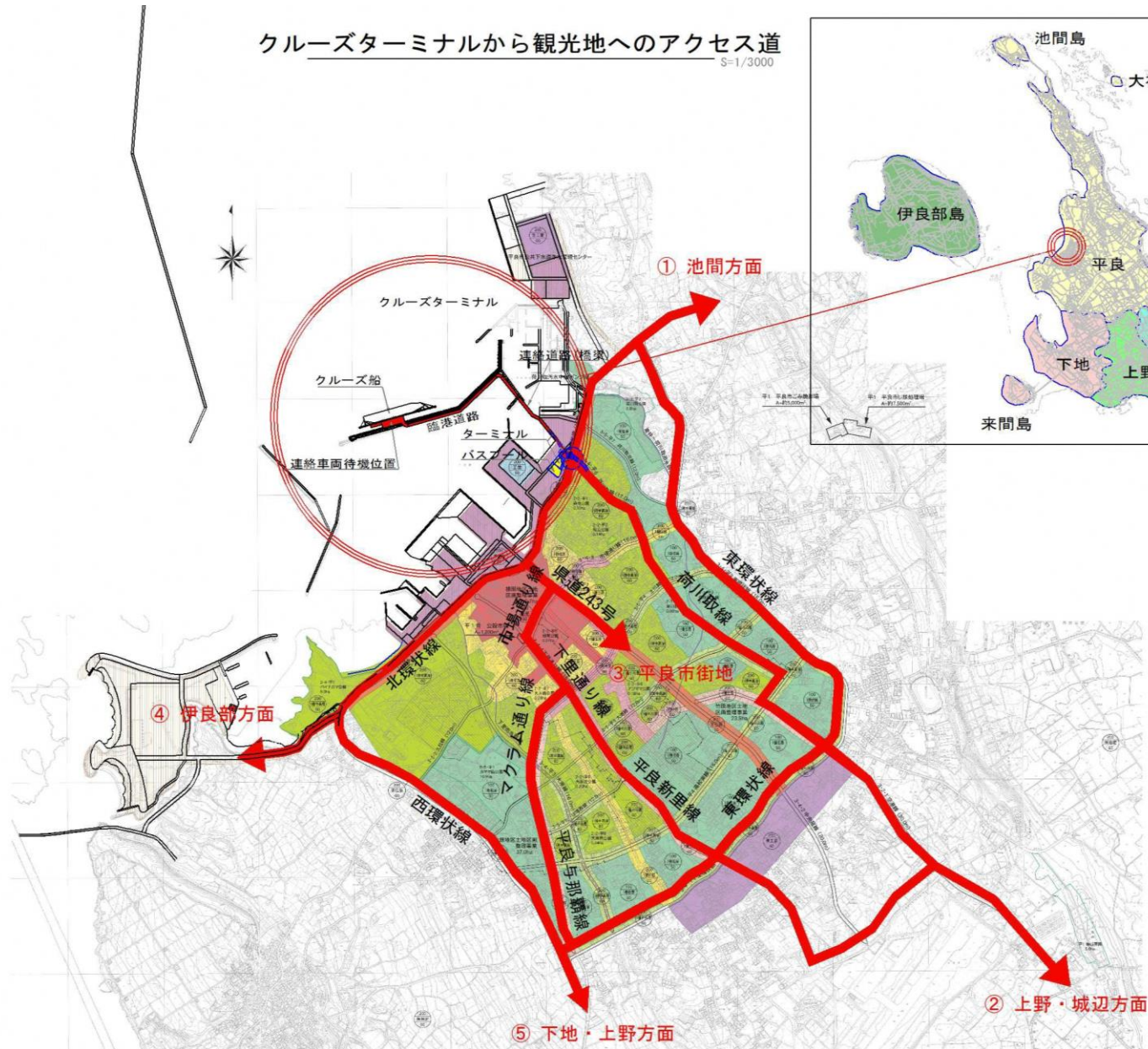
また、宮古島クルーズ客船誘致・受入環境整備連絡協議会(宮古運輸事務所やバス会社、タクシー協会、各観光関係機関等によって構成)にて、交通量に関する調査及び渋滞対策に関する協議を定期的に行う。

宮古島各地へのアクセス道



クルーズターミナルから観光地へのアクセス道

S=1/3000



○観光地名

① 池間方面

砂山ビーチ
池間大橋

② 上野・城辺方面

東平安名崎
うえのドイツ文化村
吉野海岸

③ 平良市街地

宮古島市役所（本庁舎）
飲食店等
土産物屋
パイナガマビーチ

④ 伊良部方面

佐和田の浜
下地島
通り池
渡口の浜

⑤ 下地・上野方面

前浜ビーチ
うえのドイツ文化村

クルーズターミナルから主要道への接続

5 本計画の変更および状況の確認について

今後、クルーズ船の需要増加や取扱貨物の増加、またクルーズ船を取り巻く諸事情の変化等を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うとともに、平良港クルーズ拠点形成協議会(仮称)等を活用し、関係機関で定期的に旅客数の動向や旅客施設運営状況等の確認を行うこととする。